

視聴者注目の”瞬間”を分析！ NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の第18回「壇ノ浦で舞った男」

ご家庭に人体認識技術を搭載した機器を設置し、テレビスクリーンの「視られている量」を測るTVISION INSIGHTS株式会社（所在地：東京都千代田区、代表取締役社長 郡谷 康士、以下TVISION）は、2022年1月にスタートした、三谷幸喜さん脚本・小栗旬さん主演の『鎌倉殿の13人』を、毎放送回、視聴者がどのシーンに注目したのかを分析しています。

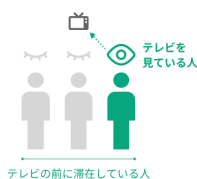
5月8日に放送された第18回「壇ノ浦で舞った男」は、視聴者にどのように見られていたのでしょうか？

テレビの視聴者の様子を、1分毎の「TVISION推定視聴率」と、「テレビの前にいる人のうち、テレビ画面に視線を向けていた人の割合＝注目度※」のグラフで見ました。

用語解説 注目度

※注目度とは？

テレビの前にいる人（滞在者）のうち、テレビ画面に視線を向けていた人（注視者）の割合を表します。シーンに注目している度合いがわかります。



テレビの前にいる人のうち、テレビ画面に視線を向けていた人の割合です。

テレビのコンテンツに、注目している度合いがわかります。

T»VISION
INSIGHTS

『鎌倉殿の13人』毎分の注視データで見る、視聴者が注目したシーンとは？

第18回は、怒涛のスピードで壇ノ浦の戦いが描かれました。平家の滅亡が衝撃的な光景として印象に残った回でした。

苛烈さを増す源平合戦。必死の抵抗をみせる平宗盛（小泉孝太郎さん）率いる平家軍に対し、源頼朝（大泉洋さん）は義経（菅田将暉さん）に四国、範頼（迫田孝也さん）に九州を攻めさせ、逃げ道をふさぎにかかります。しかし、範頼軍は周防で足止めをくらい、義時（小栗旬さん）・三浦義村（山本耕史さん）らが状況の打開に奔走します。一方の義経軍も、後白河法皇（西田敏行さん）の命により摂津から動けずいました。そんな中、梶原景時（中村獅童さん）の献策を一蹴した義経が...というストーリーでした。

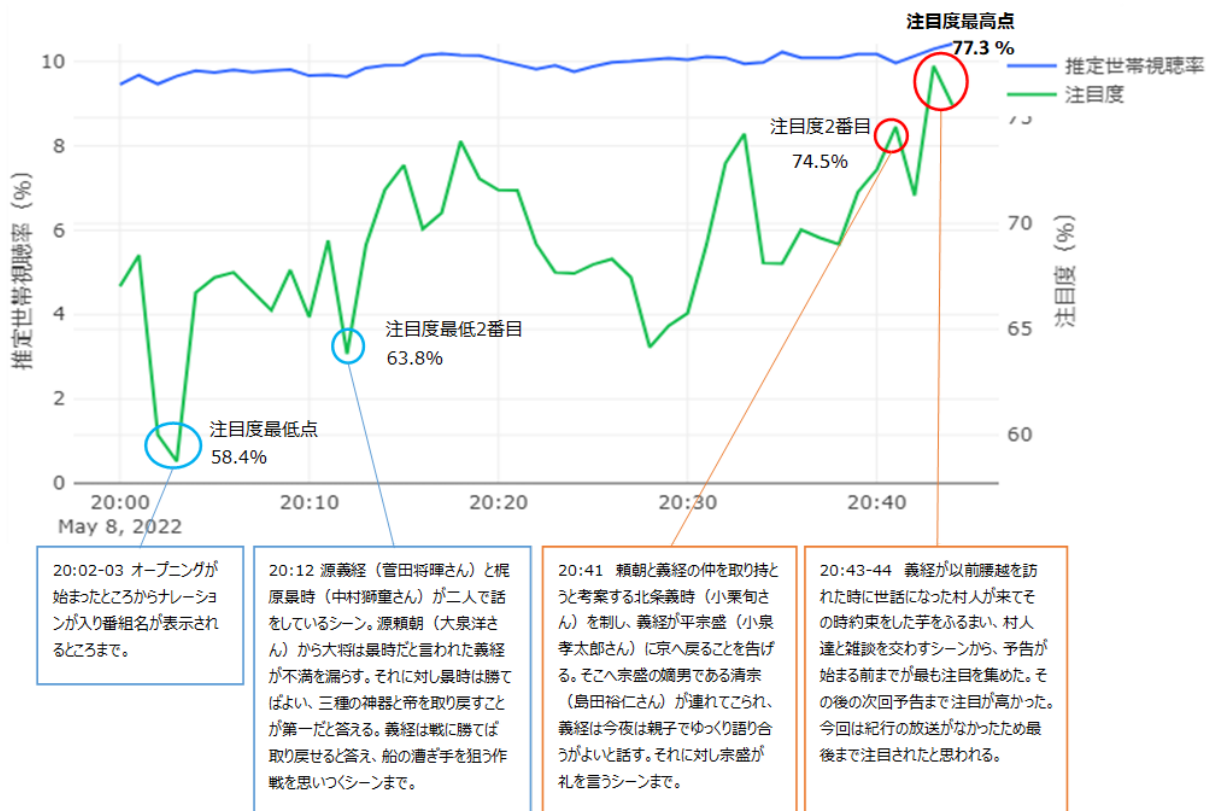
ツイッターでは「#鎌倉殿の13人」が、オンエア中から3週連続の世界1位になりました。「安徳天皇」「壇ノ浦の戦い」といった今回のメインテーマもランクイン。ネットでは、幼い安徳天皇（相澤智咲さん）の入水シーンに、辛い、不憫などという声が相次ぎました。

毎分での注目度と推定世帯視聴率の推移

日付：2022年5月8日（日）放送

属性：個人全体

NHK『鎌倉殿の13人』第18回放送 毎分注目度推移



20:02-03 オープニングが始まったところからナレーションが入り番組名が表示されるころまで。

20:12 源義経（菅田将暉さん）と梶原景時（中村獅童さん）が二人で話しているシーン。源頼朝（大泉洋さん）から大將は景時だと言われた義経が不満を漏らす。それに対し景時は勝てばよい、三種の神器と帯を取り戻すことが第一だと答える。義経は戦に勝てば取り戻せると答え、船の漕ぎ手を狙う作戦を思いつくシーンまで。

20:41 頼朝と義経の仲を取り持とうと考案する北条義時（小栗旬さん）を制し、義経が平宗盛（小泉孝太郎さん）に京へ戻ることを告げる。そこへ宗盛の嫡男である清宗（島田裕仁さん）が連れてこられ、義経は今夜は親子でゆっくり語り合うがよいと話す。それに対し宗盛が礼を言うシーンまで。

20:43-44 義経が以前腰越を訪れた時に世話になった村人達が来てその時約束をした芋をふるまい、村人達と雑談を交わすシーンから、予告が始まる前までが最も注目を集めた。その後の次回予告まで注目を高かった。今回は紀行の放送がなかったため最後まで注目されたと思われる。

TVISION INSIGHTS調べ

最も注目されたのは、20時43分から44分で、注目度は77.3%でした。義経は、以前腰越を訪れた時に世話になった村人達を探させて、呼び寄せました。戦に勝利をしたら振る舞うと約束をした芋を約束通りにふるまい、村人達と雑談を交わすシーンから、予告が始まる前までが最も注目を集めました。また、その後の次回予告まで注目を維持しました。今回は紀行のコーナー放送がなかったため、20時45分まで注目されたと推測されます。

注目度が二番目に高かったシーンは20時41分で、注目度は74.5%でした。頼朝と義経の仲を取り持とうと画策する義時を制し、義経は、平宗盛に京へ戻ることを告げます。そして、義経の計らいにより、宗盛の嫡男である清宗（島田裕仁さん）が連れてこられ、「今夜は親子でゆっくり語り合うがよい」と情けをかけます。義経の振る舞いに対して、宗盛が礼を言うシーンまでが注目されました。

注目度が最も低かったシーンは冒頭、20時2分から20時3分にかけてで、注目度は58.4%でした。オープニングが始まったところからナレーションが入り、番組名が表示されるシーンでした。

二番目に低かったシーンは20時12分で、注目度は63.8%でした。義経と景時が二人で会話をするシーンです。頼朝から「大将は景時だ」と言われた義経が、不満を漏らします。それに対し、景時は「勝てばよい、三種の神器と帝を取り戻すことが第一だ」と答える場面でした。義経は、戦に勝てば取り戻せると答え、船の漕ぎ手を狙う作戦を思いつきます。

※2021年の年間の、プライム帯（19-23時）におけるドラマジャンルの平均注目度は63%

<過去放送回の「鎌倉殿の13人」各回注目シーン分析はこちらをご覧ください>

<https://telescope.tvisioninsights.co.jp/summary-kamakura13/>

TVISIONでは、視聴者のテレビへ視線がどれだけ向けられたのか、テレビ番組では毎分、CMでは毎秒でデータを取得しております。今後も注目のテレビ番組やCMの分析を行って参ります。

<本件に関する問い合わせ先>

TVISION INSIGHTS株式会社 広報担当 佐野、峯島
東京都千代田区大手町1丁目6番1号大手町ビル6階
E-mail info@tvisioninsights.com
Tel（担当直通） 050-5468-2785

【TVISION INSIGHTS株式会社について】

TVISION INSIGHTS株式会社は人体認識技術によってテレビ番組・CMの視聴態勢データを取得し、BtoB向け視聴分析サービスを提供しています。

ご家庭のテレビに、TVISIONが独自に開発した人体認識技術を搭載した調査機器を設置し、調査参加者の視聴態勢を毎秒で自動的に取得。「誰がテレビの前において、きちんと見ているか」というTVISION独自のアテンションデータを広告主・広告会社・放送局など国内累計160社以上のクライアントにご活用いただいています。現在、国内では関東エリアの2,000世帯・関西エリア600世帯、地上波/MX/BSの全番組を計測しています。TVISIONでは「新しいデータによってメディアマーケットを圧倒的に進化させる」というミッションのもと、テレビの価値をアテンションデータによって顕在化しています。